

# ① 意見募集

## < 概要 >

次のとおり意見募集を実施しました。

### 募集期間

令和6年8月16日～令和6年11月1日

### 募集内容

訪れたいまち、回遊・滞在したいまち、住みたいまちとは、どのようなまちをイメージしますか。2050年における「将来のまちの姿」や「将来の人々の過ごし方」のイメージについてご意見を募集しました。

### 募集結果

15名の方からご意見をいただきました。いただいたご意見の内容は以下のとおりです。

## < ご意見（概要） >

No	将来のまちの姿・過ごし方	理由
1	<ul style="list-style-type: none"><li>● 高層マンションの乱立で、独特の風情のある景観が損なわれない</li><li>● 素敵なまちの特徴的な風景を大事にしてほしい</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● すり鉢状の景色は、見慣れていない者からするととても貴重で美しい</li><li>● マンションだけではつまらない街並みになる</li></ul>
2	<ul style="list-style-type: none"><li>● まちの中心部に野外ステージをつくり、その周辺のお店などにも立ち寄るように人の流れをつくる</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 県庁舎跡地や市庁舎跡地など空き地が増加しており、ダンスや演劇、お祭りなどがしやすいステージ（市民が使いやすいもの）をつくることで、人の流れができ、まちの活性化につながるため</li></ul>
3	<ul style="list-style-type: none"><li>● 斜面地が区画整理され、若い人が適切な価格で住むことができる住宅が増え、夜景の輝きが増し、若者が定住するまち</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 長崎の夜景を守り、若い人に定住してもらうためには、斜面地を活用するしかない</li><li>● 斜面地を活用するためには、道を拡げ、坂を緩やかにしないと不可能だと思う</li></ul>
4	<ul style="list-style-type: none"><li>● 子どもの医療費の無償化</li><li>● ベビーカーが利用しやすい路面電車とする</li><li>● 買い物ができる場所を低料金で巡回するバスの運行</li><li>● 子どもを安心して遊ばせる公園の整備</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 子どもが3人おり、かなりの出費であるため</li><li>● ベビーカーでの移動が大変であるため</li><li>● 公園での喫煙など、子どもを安心して遊ばせる場所が少ないため</li></ul>

# ① 意見募集

## <ご意見（概要）>

No	将来のまちの姿・過ごし方	理由
5	<ul style="list-style-type: none"><li>● オーバーツーリズムに悩まされず通勤・通学ができる観光と生活が調和されたまち</li><li>● 誕生から就学・就職・子育て・老後と包括的にこのまちで生涯を終えたいと思えるまち</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 路面電車やまちなかの混雑、ごみなど、オーバーツーリズムと思われる点があり、市民として不安要素があるため</li><li>● 私自身他県出身であるが、このまちで生涯を終えることに疑問が残るため</li></ul>
6	<ul style="list-style-type: none"><li>● 男性も女性も働きやすく、安心して子育てと仕事を両立できる環境づくり</li><li>● 子ども連れから高齢者まで多様なニーズに応えられる飲食店の充実</li><li>● コワーキングスペースやビジネスホテル、駐車場、スーパーの利便性向上</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 労働力の中心である子育て世代が安心して働くためには、安心して子どもを預けられる施設が不可欠と思うため</li><li>● 駅前の再開発やスタジアムシティ開業で、多くの集客が想定されるが、近隣の飲食店が不足しているように感じるため</li></ul>
7	<ul style="list-style-type: none"><li>● 坂のまちのあらゆる場所に斜行エレベーターを設置</li><li>● 都心部に高齢者用マンションの建設を誘致</li><li>● 斜面地は展望の良さを活かした住宅を増やし、若者が長崎ならではの空間で暮らす</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 斜行エレベーターは、住民の足となることはもちろん、斜面地からの景色は観光資源としても活用できるため</li><li>● 斜面地に住む高齢者が都心部で安心・快適に暮らせるまちになれば、先進的なモデルになり得るため</li><li>● 斜面地からの景色、空間はどこのまちにも劣らない財産であるため、時間をかけてでもその財産を活かすべきであるため</li></ul>
8	<ul style="list-style-type: none"><li>● 鳴見台小学校区内にふれあいセンターを開設</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 校区内の公共施設は小学校しかなく、住民人口からみても校区内にふれあいセンターや子育て支援センターなどがないことは異常ではないか</li></ul>
9	<ul style="list-style-type: none"><li>● いつでも、自身の時間帯で、自給自足型のライフスタイル</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 農業の継承や直売所・共同工房の設置による地域活性化につながるため</li><li>● また、この取組みを通じ、全ての市民にきっかけ作りをし、活動のステージを創出するため</li></ul>
10	<ul style="list-style-type: none"><li>● 空気がきれいなまち</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 市内の排気ガスの臭いがとても気になっており、環境に優しい乗り物への転換や路線バスの利用者が少ない時間帯は中型バスにすることで、心地よく生活できるまちになるため</li></ul>
11	<ul style="list-style-type: none"><li>● 藤棚の長崎、涼しい長崎、日傘が要らない長崎</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 昨今、暑すぎて外出することが億劫であり、観光客も高齢者もまちなかを歩くことが難しく、主要観光地や駅周辺、ランドマーク周辺の歩道に木陰が欲しい</li><li>● 高木は台風時に倒木の危険性があり、藤棚の花を見に来る観光客も増えると思うため</li></ul>

# ① 意見募集

## <ご意見（概要）>

No	将来のまちの姿・過ごし方	理由
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 文化の香り溢れる長崎</li> <li>● 長崎を「文化の香り溢れるまちにするための6文字」 希：文化の香りは、憧れ、明日への希望。子どもという名の未来の大人に希（のぞみ）を 祭：長崎の祭り。人々の情熱と伝統が文化の香りを豊かに広げる、くんちの庭先周りの様に 祈：平和の文化は、長崎の祈り。希望の灯りをたやさすまじ。その想いは、海を渡る 想：ふるさと長崎を離れて思い出す風景。それは、街並み、人、味覚、そして香り 情：ひとにやさしい長崎の心は、文化で育まれる。心は、街の香りを記憶 郷：人と人の繋がりが希薄になる時、それを繋ぎとめるのは、故郷の文化の香り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 住みたいと思うまちに欠けているものがあるとしたら、それは「文化の香り」だと思う</li> <li>● 昭和から平成に代わる時代、「物質的な豊かさから心の豊かさへ」が文化政策の柱になった</li> <li>● 文化の香りはホールだけで生み出されるものではなく、まちのなかに日々の生活の停留所、人生のバスストップが欲しい</li> <li>● 川沿いのさんぽ道、商店街の街角、海辺の歩道、それらは人々に安らぎと、くつろぎ、自由な物思いの時間を与える場所である。長崎の港には、子どもたちが描いたアートが展示され、週末には街のあちらこちらで、市民によるパフォーマンスがあり、それらは、四季折々の長崎ならではの祭りと呼応し、まちの文化を形成する。「文化の香り」はこれらすべての様相をとらえる言葉として定義したい</li> </ul>
13	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 長崎の特殊性を徹底して活かすことが何より大切</li> <li>● 旧市街、歴史のある場所と新しい部分を調和させ魅力的に。点としての個々の場所と全体の調和、統一を目指す。点在するスポットつなぐ動線の整備</li> <li>● 平和都市としてさらに発展し、国際的な平和会議の場に</li> <li>● 自然を大切に、巧みなデザインを行い、街並みとともにリゾート地とする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 国際的に優れた都市は、独自の景観と歴史的に積み重ねられた特殊性を大切にしている、観光客は絶えることがない</li> <li>● 長崎には宗教を超えて、文化を超えて、平和に向けての国際的な対話の場となる素地が世界で最も備わっていると考え</li> <li>● 自然の美しさはレベルが高く、リアス式海岸の海と山はギリシャ、イタリアに匹敵し、また、ヨーロッパとも異なる趣きがある。自然を大切に巧みなデザインを行えば、リゾート地としても世界中から人が集まるのではないかと</li> </ul>
14	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 長崎昭和レトロ計画</li> <li>● 長崎高級住宅街計画</li> <li>● 長崎長期滞在医療ホテル建設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 昭和30年代から平成初期までの長崎には、人々が集う市場があったが、現在、そこに賑わいはなく、暗い影を落としている。昭和レトロブームは一時的な流行りではなく、人々が忘れ失ったものをもう一度思い出して再現する必要に迫られているのかもしれない</li> <li>● 神戸の御影や芦屋の様に、長崎にも高級住宅街となり得る場所がある。長崎のイメージアップのために検討してはどうか</li> <li>● 医療技術を軸とした、インバウンド向けの長期滞在型医療ホテルの需要がこれから求められると思う</li> </ul>
15	<ul style="list-style-type: none"> <li>● グランドデザインの検討の枠組みの一つである土地利用に、「遺跡という存在を出現させ、市民・来訪者に見せることで、歴史的景観（昔の情景）の連想につなげる」ことを盛り込んで欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 遺跡は、人類の実証・試行錯誤とその成果の形であり、人類すなわち生物生命体のスケール（尺度）によって成立している。故に、人類にとって住みやすいはずである遺跡と相反し、齟齬をきたすことがないよう、これを設計しなければならぬ</li> <li>● 長年の人類の試行錯誤とその成果の蓄積を無に帰すことがないよう取り組むべき</li> </ul>